

りではなくこんな意氣込で勉強された諸君もあつたのですが、多分今もあるだらうと思ひます。その意氣込たるや實に結構ですが入學試験よりも何より一番に健康であつて欲しい事です。とかく試験が近づくにつれて非常な無理をする様ですから特に私の経験上御注意致します。

それから入學試験は大抵の學校では合格よりも落ちる数が遙かに多い。それでとかく落ちる心配ばかりしてゐる人も可成りあるのぢやないですか。こんな事こそ相當の學力を持ち乍らもまい失敗する原因ではないでせうか。もつと自惚れてよろしい遠慮は禁物です。もう一つ申したい事はさうしても入らなければならぬと意氣込むのも結構ですがこんな料見で試験を受けるとよく出来た場合は別として、分らない問題にぶつつかるとすぐのぼせてしまふ様な事が無いとも限らず、反つて落ちても大丈夫と言ふ方針さへあれば、悠々と受けられる。入つてからはさうでもよろしいから落ちてからの方針を充分考へておいて欲しい。之も合格の秘訣かも知れませぬ。

参考書とか歐文社とか、今から考へれば大して問題にする事でもありません。要は一生懸命に眞面目にやる事です。もう日數もあまりない様です。要領よく、つまらない事は大膽にオミットして最大の効果を收めて下さい。

三高へ入つて一番痛切に感じたのは健康でなければならぬ事です。体の弱い人がそんなに多いかと驚くと共に誰でも健康であらねばならないと思ふてせう。これも入つてからは遅いので無理をせぬ様に今から再三注意をうながす次第です。睡眠時間をあまり減らさない様に。要領よくやりたまへ。

學校は何處でも同じ事です。何處は難かしいとか易しいとか言はずに好きな處へ行かすべきです。直前になつて變更する様では先づ意氣込みの上からでも

失敗と言へませう。

諸君の成功を祈りつゝ、これで失禮。

十一月十七日 三高北寮六番にて

大阪 高校

一二年 廣部 智彰

一、寮生活

高校生活は、自然と純粹の中に青年學徒が眞理を追求し、理想に向つて邁進してゐるある意味の別天地。一味の原始性さへあります。こゝでは豫習にも追はれず、試験もなく、自由なるが尊く、學校の勉強に執はれるといふよりあらゆる方面の研究と趣味の向上、人間の眞の姿を赤裸々をぶつけあつて、親しき友と夜を徹して語り合ふ。そしてその間に個性を發見し自らの伸張をなしてゆく人生劇場な意味深い生活です。

二、在學中の思ひ出

何といつても家庭謹慎一箇月を貰つたことは痛かつた。處分は生徒教育の愛着意志の發露としてまことに結構であるが若い頃はついむら氣もあり偏見もあり先生の愛情をつひ忘れがたし。があとになると人間進歩の一契機を與へられたかの感もあり、それから以後高校生活への憧れも一段と加はり

○ 退屈なる時を持つな、自己の意志により行動することにつとめよ。
森 貞三

○ 勉強は學生の本分なり。
運動も學生の本分なり。
森 田 新造

○ 目標高く生きよ。そして機會に善處せよ。
國 島 惠裕

○ 運動部に入つて一技に長ずることは就職に一段の便益あり。
鍛 治 武男

○ 一生の守り、至誠奉公の國士。
内 藤 二三夫

○ 創立五十週年に意義あらしめよ。
藤 谷 賢雄

○ 嗚呼光輝ある一巾の傳統。
吉 田 民造

勉強も物凄く猛烈にやれたものだつた。

卒業する頃はなぜか母校を別れるのが惜しまれて後髪引かれる思ひに堪へなかつた。

三、受験心得

自信を持つてやれ。自信をもつて受けたら必ず入れる。單語は出来るだけ多く覚えよ。四年からの入學敢へて必要なし。但し四年の二學期頃からは毎夜十二時迄は必ずやれ。學校の豫習を放棄してはならぬ。スポーツは十一月頃までは影響しない。勉強のため運動部に入らぬのは愚である。都會の生徒を恐れる必要はない。彼等は單に要領がよいだけであまりやつとらん。學校の豫習は一時間位にきり上げて受験勉強を毎日五時間位コツ／＼やれば結構と思ふ。

三、大阪高校

大高は四年修了者が六十人入學する。全國一である。さう見ても四年向のやさしい問題を出してくれる。四年の受験希望者は須らく大高へ来るべし、待つてゐる。

御希望とあらばいつでも會つて詳しく話します。さらば。

高商 だより

一二年 安藤 權一

只今の私の生活は中學時代のそれと大して變りはありません

ん。又學校に關する事柄もよく御存知のこと、思ひますから改めて申上げる様なこともありませぬ。唯入學して最も強く感じたことは何かにつけて極めて自由であることです。我が高商は自由の學園を目的として居ます。それで中學時代細い事迄指導され注意を受けて來た爲に、これでよいのだらうかと思はれる位のんびりして居ます、然しその反面、自由に堪へることは却つて難しく思はれます。

彦根高商は大正十二年創立以來十四年、云ふ迄もなく縣下唯一の實業専門學校で、校歌にもある如く近江聖人を儀表と仰ぎ、偉大なる不屈の商魂と不滅の正心を我が守るべき道として日夕學問に勵んで居ます。私共の中にはその昔、一本の天秤棒を肩に全國を行商して廻つた近江商人發生の地にある高商に學びたいと、遙々北海道、沖繩、朝鮮等の遠隔の地から來てぬる人もあります。然し何といつても、全校五百八十余名中彦中出身者が一番多く、四十名に垂んとし、彦根高商彦中會なる學校内に於ける最も有力な團體が組織されて居ます。私共は母校彦中の名を恥づかしめることの無い様に、過去在學中に養はれた實實剛健の彦中精神を以て頑張つて居ります。

入學試験に就いては既に篤と御研究御勉強のこと、思ひますし、又試験について色々申し上げる資格もありません。唯一つ申し上げたいことは口頭試問のことです。口頭試問は校

○日本に神宮が幾つあるか、又その名稱

○滋賀縣は何故有名か ○グライダーとは

○國史を讀んだ時の感想 ○偉人とはどんなものか

○四季の俳句を一つ

等の漠然とした問題もありました。中でも『一磅は何志か』に答へた者は殆どなかつたさうです。

以上の様な問題は各教官毎に種々雑多で、口答試問の成績が直接に入學試験の合格に關係するものとは考へられません。が相當重視せられる様です。

聖戦も間近になりました。五年の諸君は夫々御志望校を指して懸命に御勉強のこと、御察します。今が最も大切な時ですから、御健康に充分留意せられて輝く榮冠を得られんことを祈ります。我が彦根高商へも多數御入學を心から待つて居ます。

以上長々とくだらぬことを記しましたが何かの御参考の一端にもなれば望外の喜びと思ひます。尙御不審の点がありましたら遠慮なく御申越下さい。知つてゐる限り御知らせします。

長先生以下各教官の分担に依つて行はれます。

内容は常識問題てありますが相當困難なものもある様です、例へば思想方面の問題としては

○天阜機關説とは ○ファツシヨとは

『公民』に關する問題には

○君主政治と立憲政治の相違 ○國務大臣とは

○現在の各國務大臣の氏名 ○憲法は何時制定されたか

『地理』に屬するものは

○富士山の高さ ○ニュージーランドの所在

○世界に於ける煙草の産地

○地球の春夏秋冬の起る理由 ○日本の工業發展の原因

○琵琶湖が工業上如何に利用されてゐるか

○赤道とは ○租界地とは

『化學』の問題としては

○アルキメデスの原理(風呂へ入つた時体が軽くなるのは)

○食塩の成分

時事問題に屬するものには

○二・二六事件 ○アヂスアベバ

經濟上の問題としては

○パニック(恐慌)とは ○一磅は何志か

○日本商品のよく賣れるわけ

其他

濱松高工より

一二年 中島 午郎

過去五ヶ年間に色々御世話になつた御禮として拙文をも省みず。に校友會誌の一端に寄稿させて頂きました。本年四月濱松高工電氣科へ入學して未だ一年にも満たず、まだ中學生の氣分で居ります。赤く夕日の焼ける夕、下宿の窓から空を眺めると少からず郷愁に因れます。朝夕大手橋を渡つた日の事を回想します。凜々しい制服に身を固めた中學時代は全く二度と得られない幸福の樂園でした。大楓の下で空想に耽り、金亀城頭より琵琶湖を望んだ時代も今は美しい過去の一頁となりました。閑話休題。苦しいけれども爲しがひのある所謂受験勉強も顧みれば實に貴い試練でした。古諺にも『苦は樂の種』とか。この試練を克服して始めてそこに眞の楽しみが得られるのだと思ひます。四、五年の諸君大いに勉強して呉れたまへ而して目指す最後の月桂冠を獲て、彦中の名譽を彌増して呉れたまへ。

次に濱松高工を紹介します。本校は自由啓發主義で校則罰則なく職員生徒一團となつて勉學研究して居ります。又將來 Engineer として立つものは強健なる身體でなければならぬとの見地から特に体育には充分氣を注ぎ、その爲水曜日、土曜日の午後は授業なく全校揃つてスポーツに楽しむ様になつて

居ます。本校のも一の特色は試験が一時限に行はれない事です。即一週間に二科目位づつ約一月の間普通の授業中に行はれます。従つて試験休みはありませんが、學生にとつては實に有難い制度と思ひます。本校には校友會各運動部は勿論特異なものに無電研究會、内燃機關研究會があり、それら放課後研究室で實地に製作したり、運轉したりして居ます。最近ではグライダー研究會も出來、大空にまで發展しました。本校は電氣、機械、應用化學の三科がありますが、入試科目は電氣、機械兩科が英・數・物理應用化學科は英數化學です。英語は至つて容易で中學三年の三學期の頭で十分解し得るものです。來年頃はオリンピックの英字新聞の記事でも出るのでせう。數學は一見平凡に見えますが、案外山がありますから、綿密な注意が必要です。本校に限らず工科方面へ行かれる人は特に三角法を充分勉強なさる様御薦めします。物理も極く簡單で教科書だけで充分です。一般に計算についての説明は極く簡單で宜いらしいです。要するにバスの秘策は努力に盡きます。教科書を經とし、自己の最も讀み易い参考書を緯として進まれたならば必ず憧れの上級學校へ合格し得る事と思ひます。本校本年度卒業生も全部學校へ合格し得る事し工科萬能を謳歌して居ります。工科志望の諸君よ、來りて濱工の門を叩け我等は諸兄を大手を擴げて待つてゐるぞ。

一一、一一、二九記

大阪商大高商部

一一卒 林 榮 一

懐しい母校、冬ともなれば淋しきまゝに、落葉する校庭、元氣一杯の教練、雪中のラグビーなんて、もう二度と体験出來ない様な思ひ出を淋しい様な、楽しい様な氣分て味つてゐます。去年の春閣で『我が校の誇』を言はされたが、卒業して見れば我が校の誇ぢやなくて『俺の誇』となるんだから嬉しい赤鬼現て俺は鍛へられたんだ、と云ふ事もその俺の誇の一言なる。決して嘘ぢやない、諸君が卒業して都會の學校にても入ればよく分るから。

扱て其後の生活と云つても學校の話をするれば、つまり當てはまる様です。入學式も済んだ頃丁度四月十日過頃ですが、大阪はもう大分暖かです。學校の先生達も遊ばなくちやいけな。受験生活から抜け出て來た青白い顔ぢや此の學校(商大高商部)も卒業出來ないぞと仰せられます。それぢや……と云ふ譯でもないでせうが、日曜、天長節等にはハイキングに出掛けます。颯爽と六甲へ、寶塚へ、信田山へ、ハイキングと洒落込んで一日を快樂します。夏休み迄に校内ボートレースがあります。五月頃櫻宮公園には其日商大の蟹カラが展開されます。クラス對抗競漕ですので、各クラス夫々應援に意をこらし、大阪名物の櫻宮大橋から川面に應援の幟を

數十もぶら下げ、太鼓、ブリキ鐘、日の丸扇子、紋付き羽織の亂舞をやらかします。翌日は臨時休業です、彦中のボートレースを思ひ出したりします。各部の校内大會は一年中順次に行はれます、之は全部素人ばかりでやるのです選手は除外されるから餘計に面白いのです。かくて夏休みが七月十日にやつて來ます。二ヶ月の休みを國で送つて、九月十日に學校が始まりますと、いよいよ一學期の試験が始ります。二學期の試験が三月にあるのと、試験といふものは此の二回限りです。

全校の旅行もありますし、其他お話ししたい事は澤山ありますが、結局學校生活は楽しいものだと思ふに止めて次に移ります。

今後は直接本學を志望される諸君に關係ある事をお話ししたいと思います。學校の位置は大阪市の最南端、大和川の松林を後にし、田圃の最中に學部、高商部、豫科といふ風に建つてゐます。大阪市部を遙かに離れ、空氣は大阪で一番清く、人家も無いので廣々してゐます。健康上最適の場所を占め且風光明媚、實に之でも大阪かと思ふ程田舎です。阪和電車の杉本町驛です。次に本校志望決定に必要な事項について、就職率は百分で大部分大阪市内に就職します。創立の歴史も東京商大に次ぐ古いもので五十年はとうに濟んでゐます。實業界に相當な勢力を張つてゐる事は明白です。學資ですが之は

上級學校決定に非常に重大な關係を持つてゐるので少し詳しく記して見ませう。

第一學年

- 授業料一〇〇圓、學友會入會費五圓
- 學友會費一五圓、教練費二圓
- 教科書一三圓、冬服二六圓
- 夏服二〇圓、制帽四圓五十錢
- 外套二七圓、教練服三圓七十五錢

合計 一一〇圓八〇錢

第二學年一三八圓七〇錢

第三學年一四〇圓七〇錢

親類から通學出來ると云ふ様な人は此の他に小遣若干で濟みますが、下宿するのなら二食付で月二五圓位です。田邊町に多く下宿します、學校迄電車で五分位、市内へも便利がよいからです。

扱て愈々入試の件ですが、本年度の競争率五・五、平均点六八點、志望者も大阪市内中學校が三分の二程で相當實のよいのも集りますが、決して彦中が劣る様な相手ぢやありません。彦中の模擬試験に三五〇点以上とつてゐたら先づ大丈夫です。得点は英語が一番多く従つて最も重要で、英語の書取はありません。次に点の開くのは矢張代數です、然し之とても英語、國漢に七割も取れてゐたら五割出來れば十分です

國漢は餘り点の開きが出来ません、難しいので。歴史は大きな問題一つと小さなのが二つ出ました。英語は易しいのから並べてあるとの事です。和譯も英語も相當難しいのが出ますので落着いてやつて下さい、英文和譯の中二題迄一年の教科書から出てゐますが、そんな事は氣にする事ないでせう。出題傾向と云つた様なものは、本年は例年とずつと趣が變りましたし、はつきり掴めません。唯英語には時事文らしいものが必ず出ます。國漢では漢文二題とも送り假名を付けさせられずから、此の練習の出来不出来で試験に相當な点の開きを生じます、書取も点の得やすいものであつて、又失敗すると二五点損します、其他尙詳しい事は希望の方で私の所へ問合せ下さい喜んで御返事します。豫科の方は奥居君に聞いて下さい。

多分彦根高商、高等學校と試験期日が異なつてせうから、受験するとよいでせう。本學には彦中出身三名、賀來先生は彦中の大先輩で大變骨を折つて下さいますから、受験する方は一應私の所へ御通知下さい。本學内で滋賀縣人會があり彦中が一番盛んです、膳中、虎中、八中等で合計十數名の會で賀來先生が會長です。諸君の御便宜も計りたいと思つてゐます之は入つてからの話かも知れませんが、教練等も非常に嚴格です、それだけに査閲の成績も非常によく、平常眞面目にやれば全部甲です。一週二時間。野外演習が屢々あります。

師範二部より

一 卒 和田 純 乘

懐しい彦中七百の健兒諸君

諸君と御別れたのは嫩葉の櫻に花の一つ一つ咲き初めた頃でありました。さうして今は櫻の葉もすつかり散つて、肌寒い北風の枯枝に鳴る音を窓越に聞く晩秋であります。日も明日から十二月に入ります。

『古より秋に逢うて寂實を悲しむ、我は秋日春朝に優る。晴空一鶴雲を排して上る。便ち詩情を引いて碧宵に到らん』と、陸機の謳つた秋は、敬虔の情、謹肅の氣を起さしめる靜寂の秋であり、思索の秋であります。この時靜かに胸に手を當て、細かなこの身を思ふとき我が力の余りにも小さいのに驚くのであります。この小さな力の私がかゝるまでにも成り得ましたのはひとへに諸先生の厚き御指導と大いなる諸君の御後援に依るものであります。深く御禮申し上げ、今後は向つた教育の道に邁進致し、その萬分の一にも報ひんことを御誓ひ申し上げる者であります。

凡そ教育者とは如何なるものであるかと申すに、徳富先生も言つて居られます

『凡そ物質的に恵まる、者は精神的に恵まれず。精神的に恵まる、者は物質的に薄し……』而して小學先生の如き

入學早々三日間野營の野外演習がありますし、實際愉快です。然し諸君は大阪府下の中等學校よりもずつとよく教練は徹底的に仕込まれてゐると思つてよいでせう。

大阪に來ますと非常に明かに、愉快になりました。それは暗い受験生活からの開放、それも勿論あるでせう、が又一方に大阪人の氣質といふものに大いに影響される處があるので。彦根地方には何となく暗い様な性質があつて、明朗性を欠くと云つた様なことが言はれますが、大阪人は商賣人だから遊蕩性があるからか、又は社交がうまいのか、實に氣がよく、誰とも楽しく話し、大体に笑顔が氾濫し、談笑が教室に滿ち實に明かです。然し矢張其一面輕薄であるといふ誹は免れないでせう。

以上漫然と唯思出す儘に書列ねましたが、さうか諸君は先生の御査定になる通り上級學校の志望を決定し、一路其目的に邁進して下さい事を祈り且つお願い致します。左に住所を記しておきます。

大阪市住吉區北田邊三四一

林 榮 一

大阪市住吉區山阪町一丁目一〇一

汎眞寮内 奥居 重勝

實にその最たるものなり矣。』と。

諸君小學校教員にして千萬長者を希ふことは、蛙が月を虜にせんとするにも等しく、到底不可能と言つても過言ではありません。地位も同様、如何に得たところで大したものではありません。故に教育者は、物質的には實に哀れなる不遇者であります。無限大の未來をもつ野心滿々の青年にとつてそれは余りにも限られたるものであります。

然し一方精神的方面を見るとそこに大なる幸福を見出すのであります。眞神の如き天使の如き子供の師を信ずるの絶大なるものを感じるものであります。而かもそれは大日本帝國生成への原動力をなすものであります。

諸君私はこゝで教育者の効能を喋々する者ではありません。教育者を志す者は如何なる心構が必要であらうかと云ふことを諸君と共に考へたいと思ふのであります。之について昔次の様な話があります。

或るところに船子と云ふ禪僧がありました。師は立派な弟子が一人欲しいと思はれて、その弟子を探すために或る大きな川の渡守になられて、珠數もつ手に棹を握つて旅人達を岸から岸へと運んで居られました。斯うして幾百日かの後、夾山といふ弟子を見出し、師は全身全靈をぶち込んで夾山の教導に當られた。やがてこの夾山は渡守の師と別れて他國行脚の旅に立つことになりました。黒染の衣に檜笠、草鞋がけの

夾山は師のさす倅により對岸まで送りとゞけられました。對岸に着いた弟子の夾山は、流石に名残りの惜まれて、幾度か師の御坊を見返り仲々立ち去らうとはしませんでした。この時です。

「夾山お前はまだ俺の中に何か残つてゐると思ふのか。」師は大喝するやあつと言ふ間に舟を覆し、端座したま、水中に沈んで行きました。

弟子を求めて之を得、更にそれを生長させる爲こは我が身の死も顧みないといふ崇高な師の心であります。之の心は亦教育者にとつて缺く可からざるものであります。第二國國民養育の尊い使命の完うするには自らの生命を犠牲に供して、人知れぬ谷底に碎くべく大なる努力が必要であります。

古來、我が國には築城築堤の際人柱として、生ける人間を地中に埋めてまゐりました。諸君の毎日仰がる、金龜城の下には、自ら進んで生き乍ら犠牲となつた壯烈極る老人の精神が宿つて居ると聞いて居ります。斯くすれば崩壊の憂が無いといふは素より迷信であります。然し何事をなすにも自ら起つて人柱たることを以て任ずるの覺悟が必要であります。殊に現今の如き非常時局に於ては、より切實に感ずるのであります。勿論青年にとつて大望を抱くことは大切であります。併しそれが盲目的な成功や、高遠な空想や實の無い理想であつては駄目であります。教育界のみならず現今の社會は總に

亘つて熱烈燃ゆるが如き氣魄を以て自ら人柱と任ずる青年の献身的努力を必要とすること亦切なるものがあります。

即ち至誠奉公の國士であります。

諸君至誠奉公の國士として眞に國家に役立つ者こそ、その職業の如何に不關、亦幸福な者では無いでせうか。

記憶の良い諸君は漢文新讀本卷一の本篇に浪速の儒者篠崎先生の快字の説を御存知でせう。先生の説の如くほんとうの快は字の通り心にあつて、身體に従ふものではありません。之は後世心理學者によつて確に立證されるどころでありますこの点教育者は誠に恵まれてゐます。

諸君、如何なる道にも進み給へ。併しそれは至誠奉公のもので無ければなりません。私は第二國國民養育のため最下層の石となつて満足して隠れたる努力の生涯を送らうと思ひます色々取りとめの無いことを申しまして申し譯ございません之も非才の私と不悪御許し下さい。此校御志望の方に對しましては直接御参考になる事を、即ち試験についての御話も致したいのですが、更にそれより大切なことは先づその意志との獨り考へからこの様なことを申し上げた次第であります。さうか意のあるところを御汲み取り下さい。

最後に諸先生を初め諸君の今後とも益々御指導御鞭撻を給はらんことを御願ひ致します。冬もすぐでございます。皆々様の益々御健勝の程御祈り申し上げます。



東山は……
 ……
 ……
 ……

弟子を求めて之を得ず、死んで其の志を遂げざるは我が身
 の死も悔みないといふ崇高な精神の持ち主であります。之の心は亦
 教育者によつて映く可からざるものであります。第二、國民民
 衆の奮い使命を究つるには自らの生命を犠牲に供して、
 人知れぬ存直に働くべき大なる努力が必要であります。

古來、我が國には築城築壇の器人任として、生ける人間を
 地中に埋めてまゐりました。諸君の毎日仰がる・金龜城の下
 には、自ら進んで生き乍ら犠牲となつた壯烈極る老人の精神
 が宿つて居ると聞いて居ります。斯くすれば崩壞の憂が無い
 といふは素より迷信であります。然し何事かをすにも自ら赴
 つて人任たることを以て任ずるの覺悟が必要であります。殊
 に現今の如き非常時局に於ては、より切實に感ずるのであり
 ます。勿論青年にとつて大志を抱くことは大切であります。
 併しそれが盲目的な成功や、高遠な空想や實の無い理想であ
 りては感ずるべきです。教育者の人ならず現今の社會は總に



生 先 内 竹



生 先 山 九

……
 ……
 ……

諸君、如何なる道にも進む給へ。併しそれは至誠奉公のも
 ので無ければなりません。私は第三國民教育のため最下層の
 石となつて満足して隠れたる努力の生涯を送らうと思ひます
 色々と取りとめの無いことを申しまして申し譯ございません
 之も非才の私と不意御許し下さい。此校御志望の方に對しま
 しては直接御參考になる事を、即ち試験についての御話も致
 したいのですが、更にそれより大切なことは先づその意志と
 の獨り考へからこの様なことを申し上げた次第であります。
 どうか意のあるところを御汲み取り下さい。
 最後に諸先生を初め諸君の今後とも益々御指導御鞭撻を給
 はらんことを御願ひ致します。冬もすぐでございます。皆々
 様の益々御健勝の程御祈り申し上げます。

丸山先生を悼む

丸山万治郎先生は昭和六年から本校の書記として、文書庶務の仕事に従事され、同窓會の仕事にも一方ならぬ御盡瘁を遊ばされたのであつたが、昭和十一年四月急病の爲め、旬日をまたず現職のまま、御逝去遊されました。まことに痛惜哀悼の情に堪へませぬ。

先生の滋賀教育界に於ける御功績は今更申上げる迄もありませぬ。明治三十四年來のことです。小學校長として、郡視學として、縣視學として、更に高等女學校長として、又神職會主事として教育界のため全生涯に亘り一身を投ぜられましたその業績實に偉大なるものがあります。

本校の御在任は三箇年に及びました。篤實圓滿の御人格を以て細心緻密の御勵精を以て、日夜われノ生徒の就學就職等學校生活の全般に就いて格別の御恩恵を賜り、御配意を忝くしました。

然るにわれノの欣慕し且感謝してゐた丸山先生は、一朝の病のため溘然と亡くなられたのであります。我等は先生の御逝去が本校のため日夜の繁激な御執務の御過勞に原因してゐはせぬかを恐れてゐます。とすれば先生の御生命は偏に本校のため、我等のため、献け盡されたものとして愈々痛惜に堪へませぬ。感激感謝措くところを知りませぬ。

我等は茲に先生の多年教育のため御盡し下された御功績、圓滿無碍の御人格を御慕ひ申すと共に先生の御鴻恩に謝し奉り、誌上ながら先生の英魂に對ひ、益々奮勵して他日を期して先生への報謝の誠を致したいと誓ふばかりで御座います。茲に謹んで哀悼の意を表します。

竹内先生を悼む

竹内先生と校庭でお別れしたのは一昨年の第二學期のはじめでした。その後間もなく渡満されて、皇國のため各地に討匪の指揮を遊ばされてゐた先生が、昨年十一月一日ハルビンで公務中を奇禍に遭ひ頓死され様なごときは全く夢にも思ひ設けぬことでした。昨年六月に頂いた先生からの詳細なお便りは今は亡き先生の形見になりました。ここに先生の御手紙を掲げ、且追悼の文を録し誌上を以て先生の御冥福をお祈り致します。

竹内先生のお手紙

諸君御機嫌よう。永らく御無沙汰しました。六月の末と言へば内地は暑い最中でせう。

此の暑さと闘つて毎日元氣よく勉學に精進して居れる諸君の姿が目に見える様です。

昨年十二月米原驛頭で校長先生始め諸先生並に一部の生徒諸君とお別れしたのがつい二三日前の様な氣がしますが渡満以來既に半歳を経過しました。

渡満以後直に國都新京の警備に任じて居りましたが四月中旬第九師團の北滿移駐の爲め新京を去り、當地「亞布洛尼」に参りました。

當地はハルビンの東方約五十里、賓綏線（舊北滿鐵道）の沿線にあつて、人口約四千（滿人、露人が其多數を占め日本人は僅か五、六十名）の寂しい町です。

當地方はハルビン附近の如く一望千里の廣漠地と異り、山嶽重疊し、其間を清流滾々と流れ誠に感じのよい所です。零下四十度の嚴寒も夢の如く去り、北滿の當地にも夏が訪れ、野も山も緑に覆はれ鈴蘭、百合、芍藥其他色々の花が咲き亂れて居ります。

鐵道沿線の山は多く伐木してありますが、一步奥に入れば千古斧鉞を入れざる密林地帯です。此の山、此の森林は匪賊を

跋扈せしめ其の討伐に非常なる困難を感じて居ります。小生の大隊は師團の東方最前線にあつて南北約六十里東西約三十里の警備地域を擔任して居ります。まるで昔の加賀百萬石の大名の様です。我警備地區内の匪賊も日本軍隊の駐屯以來漸次其影を潜めました但未だ考鳳林、李福林仁義、心順等々の匪賊の頭目が各々數十乃至數百名の部下を率ゐて此處彼處に蟠居し時々出沒しては民家を荒して居ります。其度毎に討伐に出動して居るので四月以來大隊だけで二十數回の討伐を實施しました。

彼等は日本軍隊の出動を知ると尻に帆を上げて一目散に奥の方へ逃げ込むので誠に張り合ひがありません。合計數十名を斃したに過ぎず鐵鎗を下すに至りません。が然し治安維持も益々良好になり、交通、通信も確保され、産業其他も日を逐うて發展しつつあることは否定すべからざる事實です。

汽車に乗つて旅行しますと、見渡す限りの未開墾地、理想の水田もあります。人口過剩に悩む我國民の將來發展すべきは將に北滿の地であらうと思ひます。

滿ソ國境の風雲愈々急なるの時討匪戰の傍ら、明日の戰鬪に備へる爲め猛演習に寧日なき有様です。將兵一同益々志氣旺盛に銃後の國民の期待に副はんことを期して居りますから幸に御安心下さい。

留守第九師團に於ても大々的の防空演習を實施され又彦中に於ても川崎先生より毒瓦斯煙幕等の最新化學兵器の説明があつた由誠に結構な事と思つて居ります。

非常時局を突破せんとする皇國の爲に、又創立以來五十年を閲する彦中の爲に諸君の御奮闘を切望してやみません。北滿の假地に勤務して居る軍人の唯一の慰安は家郷知人よりの通信です。本日生徒の某君から久し振りの通信に接し懐かしの彦中を思ひ起しつゝ、近況の一端を御通知した次第です。

遙に生徒諸君の御健康を祈ると共に寫眞代理を以て暑中御伺ひ申上ます。

さやうなら

六月二十三日

彦根中學校生徒諸君

竹内章雄

（附記）

別葉故竹内先生の御寫眞は、この手紙と同封された風箏たる在滿の馬上の御雄姿を半身複寫したものです。

竹内中佐を偲ぶ

客員 杉原喜美太

元本校配屬將校歩兵中佐竹内章雄氏、氏は昭和十一年十一月一日滿洲國哈爾濱に於て公務中奇禍に遭ひ忽焉として長逝さる。哀悼痛惜に堪へざるなり。特に余は二ヶ年間に中佐と机を並べ其指導を受け、時には公務の餘閑を以て鳥鷺を闘はし或は互に胸襟を開きて談笑に耽りたる事ありしを以て轉た追念の情禁する能はざるものあるなり。

中佐は兵庫縣の出身大正四年陸軍士官學校を卒業金澤歩兵第七聯隊附となる、資性温厚篤實技量優秀にして模範的將校たり。爾來引續き同隊に勤務し昭和八年四月少佐に累進す此間中隊長として北支に駐屯したる事あり。時恰も日支交渉困難なる秋にして此間克く部下を統御して難局に善處し皇軍の威武を發揮したり功に依り勳四等に叙せられ旭日小綬章を賜はる。

中佐が配屬將校として本校に赴任したるは昭和八年八月なりき。其玲瓏玉の如き人格と優秀なる技量と、加ふるにその颯爽たる風姿とは忽ちにして全校崇敬の的となる。

斯くして配屬二年間熱誠懇篤を以て生徒の訓育指導に當られ、その信望頗る厚く、成績大に見るべきものありしが、昭和十年八月歩兵第三十六聯隊留守隊附に補せられ、全校惜別

の裡に本校を去らる。やがて間もなく大隊長として勇躍渡滿各地の討伐守備に就き、赫々たる武功を建てられ、昭和十一年八月には歩兵第十八旅團副官に補せられ夙夜畫策大に力むる所あり。

噫、然るに天、何ぞ無情なる。一朝にして此好漢を奇禍に依り異境の地に奪ひ去らんとは。

予初め中佐の訃に接するや暫し我と我耳を疑ひたり。彼の頑健そのものにして機敏なる中佐が不慮に斃れんとは容易に信ずる能はざりしなり。この情は今日に於ても猶折に觸れ中佐の颯爽たる風姿を眼前に彷彿して未だ幽明界を分かてりとも思はれざるなり。呼々、嘗て陽春櫻花爛漫たるの日校庭に於て相共に新入生の教練にいそしみたるも今は夢か。

或は野外の演習に際し炎熱の夫上川嶺を駆け廻り流汗淋漓たるもありき、嚴冬膝を履する雪中の行軍に巨にラッセル（除雪機關車）となり生徒を引き廻したることもありき。更に縣下中等學校聯合演習に終日終夜饗庭野原を駆け廻りて奮闘したるも、あ、すべては中佐を偲ぶ追憶の種のみ。

そのかみ中佐が憧憬措かざりし伊吹の靈峰は千載變らぬ事なく、朝夕に仰ぎ眺めたりしならん金龜の城も舊態依然たるを今や中佐は亡し。

中佐が二年間立ちて生徒の薫陶にいそしみたる校庭の櫻は又來る春に巡り合ひて新らしき花を飾らんを。

然るに噫中佐と再び語る日は來らず、其英姿を再び校庭に見る能はざるなり。噫。

あゝ、竹内先生

五年 越 武 和

茫漠千里の曠野の涯に、釣瓶落しの秋の日が空を茜に染めた時

一羽の鳩は蕭然として凶報を敦賀路へ演習中の留守隊長へ傳へました。

夢にも知らず手に取りて、開き見れば悲しやなわが竹内先生の御逝去を記した通知であつた。

鬼神も哭く此の悲報。たゞ驚き、たゞ歎き、天を仰いで長歎するばかりである。

昨夏の末つかた、告別してからまさに二星霜、恩師の武運長久のみ

朝な夕なに祈つてゐたが、今はそたも水泡となつてしまつた極寒零下三十度の地に、或は鐵をも溶かす夏の炎天下に

討匪のた、かひ幾十度

武運赫々として北滿の天地に

鬼大隊長の名も高かつた先生

思へばたゞ悲し、かつて先生の

興へ給ひしプリントも、

今は形見となつてしまつたか

既に護國の鬼となり給へる先生である。

先生を偲ぶ時、私は先生の御靈に固く誓ひます。『先生の御

薫陶の数々一日一時として空しくは致しませぬ。」と。

あゝ、無情——耳を澄ませば城山の入相の聖き鐘の音がきこえる

先生の死を弔ふが如く。

いや尊き先生の御靈よ安くねむりませ

永久に御國を護りませ。

噫竹内先生！

嗚呼われらの軍神となられました竹内中佐……。

竹内先生を憶ふ

四年 西 關 藤 一

十一月二日、空は相變らずの秋晴れて朝らかな色を見せ、金龜の城の上には何時もの様に鶯が樂しげに舞つてゐた。而し我等彦中七百の生徒は、此の朝夢想だにもしなかつた悲しい報せを受けなくてはならなかつた。——竹内先生の死——がそれだつた。

朝、校長先生が壇上に立たれた時、我等はみんなお話を承るのだらうと、皆一齊に先生の唇を凝視してゐました。そして其の時、正に其の時、先生の口から出た言葉は實に悲しい報らせだつたのです。あゝ、我等の驚き、我等の失望、悲歎は如何許りであつたてせう。我等は一度ならず自分の耳を疑つて見ました。『そんな事がありえようか。何かの間違ひは無いから、いやまちがひであつてほしい』と。

先生が本校に御在任の二年間と云ふものは、常に慈父の我が子に對するが如き嚴格の中に、慈母の我が子を導くが如き

愛情を以て、一つ／＼熱心に、噛み砕くが如く懇切に、我等にお教へ下さつたのです。

思へば去年の十二月夜の米原驛頭に、先生の晴の壯途を御見送りしてから、十二ヶ月の時が流れました。その間北滿の地方からの雁の便りに、又その元氣な颯爽たる御寫眞に、あの廣漠千里の滿洲の平野で、西に東に轉戦又轉戦して常に赫々たる武勳を立て、君國の爲に御活躍あらせられる御面影を、皆齊しく腦裡に描き、思ひを山河幾千里の滿洲の地に馳せてゐました我等彦中の生徒でした。

あゝ、それに何と云ふ事だらう。今突然公務の爲に仆れられて、すでに護國の鬼と化せられたとは。我等生徒一同眞に云ふ處を知りませぬ。思へば吾等が此の學舎で、先生の教を受けた時、或はあの犬川碩の夏の日の下で、或は又木枯の肌をちぎるか、吹雪飛ぶ冬の日の校庭で、將又春雨のそぼ降る教室の窓邊で、我等が先生から受けた御薫陶の御恩は、實に何を以て比べる事が出来ませう。凛とした嚴格さの中にも温容溢るゝが如き慈愛を以て、一敵が此所から來たら、かう云ふ風にするんだ。又こんな場合はかう云ふ様な方法があるんだぞ。』とあらゆる新しい方法により、總ての場合を盡して我等にお教へ下さつた先生、これ實に先生の我等青年學生を愛し、我等若人を思ひ、將來一人でも多く我等をして、至誠奉公の國士たらしめようと云ふ、先生の強い／＼愛國心から迸り出る熱と愛との御教育だつたのであります。我等は斯くて日夜に、先生の御教を遵守して、將來社會に出て上は一身を擲つて御國の爲に盡さうため、勉學に勵み、修養と鍛鍊とを續けて來たのであります。今に當時の御訓誡がヒシ／＼

と胸にあたります。

嗚呼！先生は異境滿洲の地に大和武士の花吹雪と散られたのです。そして既に五旬を経ました。而し懐かしき先生の思ひ出は次から次へと胸に浮んで來ます。哀惜の情は轉絶えませぬ。先生の御肉體は既にこの世の物ではありません。然れども先生の皇國に對する大いなる御功績は永久に亡びませぬその御靈は靖國の祭神として永久に國家を守つて下さいます而して又、先生の御心は常に我等の胸の中に脈うちつゝ流れてゐます。我等は一層感奮興起して先生の御大恩に報ひ奉る爲には、日頃の先生の御教を守り、又校訓の日指せるが如き至誠奉公の國士たらん事を目標として、一致團結校風の振起向上に努力し、出て、は、社會の中堅國民となつて、一意専心御國の爲に盡すばかりです。「草葉の蔭から良くやつて呉れた」と先生の満足の微笑を仰ぐために。希くは先生の御靈よ永久に彦中七百の健兒をお守り下さい。

哀悼竹内先生

四年 大壽賀良友

先生偶不慮災難。至誠殉職德聞傳。日本現狀面危機。借師何早趨黃泉。



雜報

ピアノ備付披露音樂會記

(口繪参照)

音樂が情操陶冶に資する點は今更申す迄もありません。中學校の教科に之を加へられてゐるのも、之によるので我が校に於ても昭和六年以後正科として音樂を課せられることになりました。音樂教育の能率を向上せしめるためには特に設備の完成が必要であります。この意味から從來の本校の音樂設備として音樂教室及び一臺のオルガンの程度では全く貧弱を感じざるを得ませんでした。又本校に於ては近年から式日に式日の唱歌を齋唱する定まり、式日唱歌用としても、樂器設備の完成が切望されてゐました。

この時講堂用ピアノとして一臺、音樂教授用ピアノとして一臺、一舉に二臺の莊麗優秀なピアノの寄贈を受けたといふことは我等にとつて非常なる幸福であり、本校としての誇りであり、これによつて音樂學習の上に一段の効果を擧げ得ることは疑ひを容れませぬ。

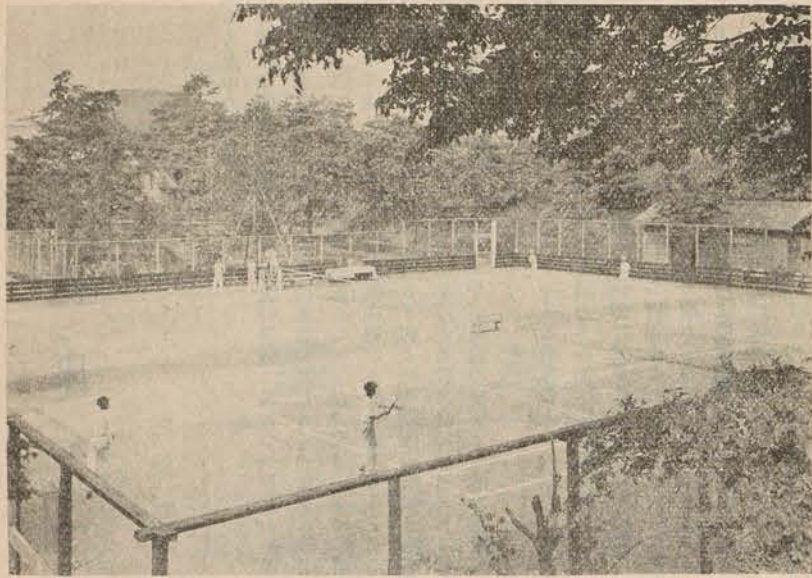
講堂用ピアノは立派な山葉式平臺で西田庄助氏の寄贈、音樂教室用ピアノはこれまた立派な山葉式平臺で石橋彦三郎氏、前川善市郎氏、奥村龜太郎氏、古川銀次郎氏及び宮部千太氏の五氏の寄贈です。本校教育向上のためこれらの諸氏の美舉に對し深く感謝を表する次第であ

ります。

この二臺のピアノの寄贈を受けまして、本校では昭和十一年六月九日その備付を了し、ピアノ披露を兼ねて第一回音樂演奏會を盛大に開催致しました。演奏會の次第及び曲目は次の様であります。

昭和十一年六月九日(火)午後零時五十分開會

- ピアノ 音樂會プログラム
- 披露 國歌 齊唱
- 學校長挨拶
- 一、齊唱……………一年
- 春の曙……………ウエスレー
- 五月の野邊……………ヘルスマン
- 二、獨唱……………三年二組 岡庭 秀
- 故郷の追憶……………ペーリー
- 三、齊唱……………二年
- あけぼの……………フランスマ民謡
- 希望の光……………シュワルツ
- 四、ピアノ連弾……………曾我繁三先生
- ウイーン行進曲……………ツルエニ
- 多田操先生
- 五、獨唱……………二年一組 江藤真藏
- 海國少年……………イギリス民謡
- 六、齊唱……………三年
- 樂しさ農夫……………シュイマン
- 菩提樹……………シュイベルト
- 七、ピアノ獨奏……………多田 操先生



新設された庭球コート

縣下一と誇り得る庭球コートが二箇所新設されました。講堂新築のため一時コートを失つた庭球部のため、本校校友会のため喜びに堪へませぬ。位置は舊寄宿舎址で、排水もよく、緑樹の蔭も濃やかに、設備も完全に全く明らかな理想的の庭球コートです。新設の経費は八百圓。六月にコート開きを行ひ、校内の競技大會を催し、以來日々一段と旺盛な元氣を以て選手諸君の猛練習が營まれてゐます。

去る九月二十三日にはこの新装のコートで縣下大會が行はれ、本校選手は見事に優勝致しました。まことに幸先のよい話です。選手諸君の満身の歡喜が思ひやられます。コートの新設により本校校友会庭球部の妙技が一段と進境を示し他日縣内外の争覇戦に快勝せられんことを祈つてやみません。

- トルコ行進曲……………モツアルト曲
- 八、獨 唱……………二年三組 水谷正友
- 日 章 旗……………シユワレルツ曲
- 九、齊 唱……………四年 年
- 初夏の歌……………プラームス曲
- 彦中應援歌
- 十、ピアノ獨奏……………曾我繁三先生
- ドナウの漣……………イヴァノウイッチ曲
- 十一、齊 唱……………五年 年
- サンタルチア……………ナポリ民謡
- 帝國軍人會歌
- 十二、ピアノ連彈……………(多田 操先生 曾我繁三先生)
- 軍隊行進曲……………シユワレルト曲
- 獨 唱(一)德 山 健氏
- 伴 奏 菅原田鶴子氏
- 一、菩 提 樹 シユワレルト曲 一、シユワレルトの子守唄
- 二、悲 歌 マスネー曲 二、プラームスの子守唄
- 三、ツオルガの船唄 コシヤ民謡 三、モツアルトの子守唄
- 四、日本の子守唄
- ピアノ獨奏 菅原田鶴子氏
- 獨 唱(二)德 山 健氏
- 一、カ ッ コ 鳥 山田耕作曲
- 二、鳶のお晝寝

三、すかんぼの咲く頃

四、雀の番、鳥の番

一、山のあなた

二、お菓子の家

三、城ヶ島の雨

四、お菓子と娘

校 歌 齊 唱……………全體

當日特別賛助出演として當代の音楽家として有名な徳山健氏並に菅原田鶴子嬢の美聲と妙技に依り、一段の好評を博し、聴衆は、さしもの廣い講堂を埋めて頗る盛會でありました。これを第一として今後時々演奏會が開催され、本校音楽教科の地歩を高めてゆくことと思ひます。この二臺のピアノの備付により、講堂はその設備の品格を高め、音楽教育はその利便と効果を一層擧げうることを思へば、まことに幸慶と申さればなりません。



健康を守れ

昭和十年卒

森

嘉

重

親愛なる彦中の諸君。

私は母校卒業後彦根高商に入り前途の理想に燃えつつ若々しい青年學徒の意氣を謳歌しつゝ、楽しい一箇年を送りました。ところが二年目に入つて若葉薫る初夏の頃から何となく五體がけだるく、食思は減じ、體重は減り、どこもなく全身のコンツシヨンが悪くなりました。受診の結果は肋膜炎で、それからドツと臥床してしまひ、父母の手厚い看護の下に日々を悶々の中に暮しました。病は一向によくならず、高熱が續くやうに實際學中途にしてこの實情は涙に咽ぶより仕方がありませんでした。「健康第一」だとか「健康之福大於財寶」とか、學校にある時は何とも深くは考へなかつたが、この際なるに何よりも健康の重大さを感じ、健康でなくては一切が無駄だといふことを骨髓に徹して痛感しました。

そのうちに醫者御手當や、父母の手厚い看護で時の経過と共に漸次病勢も衰へ、今日では専ら豫從の靜養に力めてゐます。これがために學業の方は一時挫折の止むなきに至り、今に前途の暗雲と生活の憂憤とを拂拭するには至らず。全く年若くして病む身のつらさは一たび病に罹つたものでなくては體驗できない悲惨です。

然し、一たび病に罹れば、それが一生の計算の上の大損失ばかりでなく既に取りかへしのつかぬ程の失敗です、すでに病まなれば、之に處するの道はあるが、要は平素の注意と戒心とを加へて健康であること、病に罹らぬことが最善の道であります。一日の豫防は百日の治療に優る。ことは至言です。平素に於て運動し、快活に元氣にして身体の鍛練につとめ不規律な生活、過度な一時的勉強、暴飲暴食は避け、一方疲労なりして身体の具合の悪いことを感じたならば出来るだけ早く回復させ手當を加ふべきだと思ひます。健康だ健康だと思つて油斷は決して出来ません。至誠奉公の國士となつて邦家のため微力を效すについても根本はこの頑健強壯な肉體に基くのである。健康を守ることは一身のための良心であるばかりでない國家奉公のための最上の道徳であるに信じてゐます。今日の學生々活には生理的には勿論受験や研究や其の他で心身の無理が積重し易い時です。切に切に身體の上に最善の注意を加へて欲しいと思ひます。健康でなくては満足な社會生活は出来ません。生存競争の激しき現代に決して弱者たることを得ませぬ。病氣は悪魔です。殘酷な悪魔です。病になつて始めて健康の偉大さを感ずるのは既に遅い。平素に力めて下さい。切に。

部 報

- 一、劍道部報
- 二、柔道部報
- 三、端艇部報
- 四、野球部報
- 五、庭球部報
- 六、競技部報
- 七、水泳部報

歌 援 應 中 彦

- (一) 嗚呼英傑が夢の跡
歴史は遠く三百年
金亀城頭我立ちて
尙武の風に嘯けば
花橘の香にはほふ
健兒の意氣は天を衝く
氷刀腰に夜泣いて
たぎる正義の血潮あり
- (二) 嗚呼英傑が夢の跡
歴史は遠く三百年
金亀城頭我立ちて
尙武の風に嘯けば
花橘の香にはほふ
健兒の意氣は天を衝く
氷刀腰に夜泣いて
たぎる正義の血潮あり
- (三) あはれ雲待つ蛟龍の
猛者一度地を搖れば
強風陣々雲捲いて
行手に敵の影もなし
旌旗は高く天を摩し
金鼓勝利を告ぐる時
月の桂の香に咽ぶ
今宵健兒の夢如何に
- (四) あはれ雲待つ蛟龍の
猛者一度地を搖れば
強風陣々雲捲いて
行手に敵の影もなし
旌旗は高く天を摩し
金鼓勝利を告ぐる時
月の桂の香に咽ぶ
今宵健兒の夢如何に

劍 道 部 報

四月の太陽の微笑む頃。大地の活動の始まらんとするとき。花咲き、鳥歌ひ、人の心は何處をさまようとも、胡蝶は舞ひ生きとし生けるものは皆、その歡喜に躍ることも、それは時の移り、陽氣の萬物を支配するのみ。

陽氣を支配しその勢を以て更に勢ひづけるものは何處にかある。長き歴史、貴き傳統、金亀の城の奥深く藏せられてゐる武士道精神には非ずや。

春風快く我が頬に吹き、花吹雪に圍まれし我が彦中劍道部には、武士道精神の象徴として、瀟灑たる氣合、若人の意氣、太刀風一陣緊張せる練習が行はれた。

昨年、一昨年、花々しく戦場の露を散つて今は母校を去りし先輩の名譽にかけても今年こそは、必ずや多年の恨をばらさで置くべきやがて四月の花は散り、五月の菖蒲は男子の節句大和男子の意氣と大空に息吹く鯉のぼりと共にさり、練習の休斷一日までなく、部員結束、今は目ざす大會にその威力を示さんものと一同誓ひし折も折早や六月の聲すれば

二十一日こそ初陣の功を立つべき八商劍友會主催、近府縣中等學校劍道大會の當日と定ま

れり。時ぞ至れり。いざ戦はん我は——。彦中の名譽の爲めに、七百健兒の意氣を代表して——巍然として聳ゆる金亀城、我等の勝利を祈るのか、青空高く轟なきて、汽車は出でぬ。今日こそ正に試合當日なり。

第一回戦不戦勝
番組發表——第一回戦は不戦勝となれり。一同ぐつと落ちついて、二回戦への経過を見守る。

第二回戦 對大津商業(不戦一名本校勝)と決す。大津商業は一回戦に於て前年優勝校聖峯中學を破りたり。

我等油断なく彼を破らんものと決意す。竹刀にぎる手がこまかく、うごく。緊張せる一瞬、試合は早や始まり。我が軍の意氣大いに振ふ。先峯古澤破れると見るや津田慎然として起ちて之を倒し、石田、尾本の活躍終に敵をして呆然たらしむ。望月悠々として出す。第一戦を得たり。

第三回戦 對京都一商(不戦一名本校負)準々決勝なり。對手は名にし負ふ京洛の雄、

京都一商と相見えたり。

一商何ものぞ。古澤立つ。接戦數合我之を得たりと思へど利有らず引上ぐ。津田、尾本、決然として戦へど、如何せん敵の先峰を以て名をなさしむ。石田立つ。我等は石田に大を頼む。石田頑張れ。石田よ戦へ。母校の名譽の爲めに——。遂に石田勝つ一人を挽回せり。殘るは四名。しかれども石田疲勞せしか力途に及ばず。敵の次將に破らる。最後の一人大將望月出づ。一人として道場に聲なし。

望月輕く之を倒す。中堅出づ。「勝負三本」審判の聲高し。

望月じり／＼よる。敵小手を切る。審判の手上る。

あゝあゝ一本望月頼むぞ。敵ぐん／＼よる。望月必死にこらへて面を切る。一本一本勝負となれり。望月の調子出で續いて面を切ればあざやかに定まる。

敵の副將立つ。望月息もつかず對戦す。敵新

手の勢を以つてぐん／＼攻む。戦は正に白熱敵先づ小手を切る。望月應酬して面を切りて再び一本一本となれり。勝負全く懸断をゆるさず。満場息なし。望月陣をかゞつて面にさぶ——あゝ無念や

敵は小手を押へるを見るや終に我は敗れたり
四月以来の練習練習、今此處に三回戦を以て去らねばならぬとは。一同涙をのんで引上げたり。

昨日の恨は今日の發憤となり我等の練習は熱を帯びたり。灼熱は容赦なく我等の身に迫り来る。雖も、我等少しも屈せざりき。あの無念——あの戦——我等は京一商に破れしを夢にも忘れざりき。
如何にして復讐せず止むべきか。

汗は目を見えなくし——力は我身に盡きはて、道場の隅に我が無力を歎き、一段先生の竹刀に突進する我等ではなかりしか。一度だつて——一度だつて——あの無念——あの苦杯を思はず練習しけりや。

しかも續いての全國中等學校豫選大會に於て優勝校平安中學に破れたり。
折角網に捕へし大魚を逸せる哉。一同くやし涙に滿つ。又しても又しても運命の神は何處までいたづらか、それとも部員の心をたぬす天の試練なるか。
戦は悲惨なりき。

今、戦跡を顧るに暗鬱として以下記するに足るものなし。或は全國青年演武大會には天王が、練習の終つたときの爽快さはたとへることの出来ないものです。

僕等に對する諸君たちの最も大なる御後援は、諸君たちが一人でも多く道場に來られて僕等に鞭つて下さることです。特に來年五年生になる人達にお願ひするのです。

五年生は學校の最上級の生徒であります。諸君の意氣が全校に反映するもの大なるものがあります。

諸君が擧つて放課後三十分なり一時間なりの短時間を諸君の運動の日課に當てたならば彦中の体育と意氣とを増進し時恰も、五十週年を迎へる記念すべき年にその榮譽を數倍するでせう。

さてそれから今の三年生の諸君よ、諸君は運動部に入つてもつと運動すべきではないでせうか。

見まするに諸君達の中には立派な素質のある人も一人や二人ではありません。

特に三年生なるときは自分の思想が纏らないで物事にまよふさきであります。この時に於て運動に専心して自分の思想を一貫させ、それが人生への大なる利益を與へることでせう。起てよ三年生諸君、若人の意氣は運動にあり

寺商業に破れ、或は京大主催の大會にては四國の雄高松一中に破れ、高商にては岐阜師範に降る。

しかも最後の戦縣下大會にては如何なりしか。先づ長農を四對一で破りしが、次に優勝校膳中と對戦三對二にて惜敗す。

かくなりて我が組の優勝決したるとき我は最早や絶望せり、精魂盡き果て、八中にも三對二にて敗れる。

あゝ思へば果敢き我が最後。

敗殘の將兵を語らずさかや。しかも我が此に記せざるべからざる心中——我が七百の若き健兒よ、我等は諸君の前に、諸君先輩に對して何んと言つて詫びることも、諸君は我部のこの不振を許さざらん。

實力を有するを認められた我等の敗戦は何故なるか。

強者は弱者ならず。弱者として我等は試合下手なりき。百戰鍛磨することを得ざりき。専心練習し、夏期に於ては特に大原三段、平尾三段、筒井氏等のコーチを受けたりしか——。

我等の不振を殘して我は去らねばならぬ。なつかしき五ヶ年の劍道部員として、あの道

どん／＼入部されんことを乞ふ。

それから一年二年の諸君よ、諸君は何事でも眞面目で一番たのしい時である。そしてその愉快な氣持を生かして、いつも若々しい氣分をたもつことが必要である。そして諸君は今自分の屬してゐる運動を絶対に止めないことを誓つてほしい。

去るに當つて一言のこと。

尙、本年我部のためにのこつて共に練習して下さつた菅原君並に堤君に絶大なる感謝を送るものであります。

あゝ劍道部を今去らんとす。

思ひ深き母校を後にすとも我等は彦中劍道部の發展を祈つて止まない。

さらば——。

場に汚點を殘す我等の不振を詫びつ、。

願はくば劍道部の諸君よ、諸君の力を以てすれば、必ずや來年こそ、我等の名譽のために、彦中劍道部のために、自重して戦ばれよ。なほ去るに當りて七百の健兒に告ぐ。

諸君、僕等は今なすこともなく、却つて不名譽を殘して心ならずも本校を去らねばなりません。

今こゝに諸君に一言お願ひし度いことがあるのです。

我部は四年生三名、三年生二名、二年生十數名、一年生十數名の部員を擁して居りますけれども、あの廣い道場でありまして諸君たちがまだ／＼やつて來て我が部を應援して下さることも出来るのです。特に劍道は正科にもあり、日本人の精神身体を養ふには最も立派なる運動であるを信じて居ります。諸君、畏れ多いことながら

明治天皇は、文武の兩道について國民に御諭し下さつてゐるではありませんか。

生徒として勉學にいそむ一方、道場で竹刀を持つて運動して近代日本の中堅としての立派な体格を作り上げようではありませんか。僕は劍道部員として今日に及んで來ました

三年 樋口 善八 富水 信雄
西山 子得

陽春四月、木々の芽も萌え初めて、生物皆希望に溢るゝの候、我等また更生の意氣に燃え、新しきスタートを切る。幸ひにチームは昨年度と全く變更なく、而も五年生を五名も有するなり。されば幾多先輩諸士が望みて果さざりき縣下大會の覇業を成さんものと、部員一同悲壯なる決意を以て起らぬ。

第三十七回青年大演武大會出場之記

爛漫の春過ぎて、若葉薫る初夏の訪れるや我等の練習は其の度を増しぬ。放課後高商道場に參じて島崎先生、余語三段以下の猛者の指導を受け、漸く日の没する頃、疲れし体を家路に急ぎぬ。かくて我等の技倆は愈々向上せり。

光榮の時は來りぬ。七月二十七日、我等は今年度初の槍舞臺武徳殿に駒を進めぬ。翌二十八日は個人試合なり。然しその成績二勝、三引分、三負にて、芳しからざれども大事は明日ぞと自重して早く臥しぬ。

明けて二十九日、第一回戦は三重縣尾鷲中

柔道部報

部員	五年	四年
宮川 清	丸野 房松	谷 傳一
的場 皎	鳴本 光高	北川 浩
佐久間富雄	山内 光造	
福原 快稔		

學と對戦す。敵は大将副將のみ初段にして、我等聊か物足らぬ位なり。然るに、嗚呼何たることぞ、この弱敵に敗れんとは。先鋒島本我先づ最初の一点を獲得せんものと起ちしが彼少しく落付いてゐた爲背落にて投げられ、却りて一点先取さる。次鋒の場奮戦せしも、また背落にて敗る。續く中堅山内、副將佐久間、攻撃又攻撃敵を壓倒せしかど、敵巧みに逃げて遂に引分、大将宮川我のみにても奮然起ち敵將を軍門に下せり。その功賞すべしされど二對一点半にて我軍敗る。嗚呼決して弱敵と侮る勿れ。我等は恨を残して、京洛の地を去る。

高商主催近府縣中等學 校柔道大會出場之記

九月二十三日、高商主催柔道大會は遂に來れり、四月以來、炎熱に玉なす汗を流し、只管縣下の覇權を目指して進みし我等、脆くも七月武徳殿にて涙を呑みし我等、縣下大會の前哨戦とも見るべき此一戦に勝たずして、何の面目がある。何の顔がある。第一回戦は大垣中學と相見ゆ。

代りて出で、奮戦して引分けす。島本意氣物凄く敵を軽く敗る。山内、宮川、佐久間は引分け一對零で我軍勝ち、第二回戦に出場す。第二次戦は抽籤の結果、虎姫中學と對戦す。敵は初段四名の猛者揃ひにして、優勝の野心満々たるなり。然れども我に傳統の産中スピリットあり。何ぞ恐るゝに足らん。果然道場の衆目は此の一戦に集りぬ。丸野、島本接戦して引分す。山内得意の体落しきまつて一点を先取す。副將宮川、敵の實力御大三輪の攻撃をよくかばりて引分け、大将佐久間敵將を押込にて打取りたるは天晴れなり。遂に我等は能く強敵虎中を敗れるなり。快なる哉。次は準備優勝戦なり。師範と相對するなり。我等意氣上りて之に當りたれど、天我に幸せず、敗れたり。丸野よく戦ひたれど敗れたり。島本ぐんぐん攻撃し遂に押込みたれど、敵途中で起上り引分となる。山内又頑張れど引分けす。續く宮川の攻撃たるや實に壯絶を盡せり。然れども敵は引分けの巧みな谷、遂に引分けとなる。大将佐久間揮身の勇を以て敵將に挑めど、敵將老巧なる小棍、遂に引分となり萬事休す。嗚呼我等こゝに敗れたり。因みに師範は八日市を敗りて優勝せり。メンバーは大

本校 大垣中
先鋒 島本(初段) × 清水信夫(二級)
次鋒 的場(一級) × 松尾保夫(二段)
中堅 山内(初段) × 桐山 茂(一級)
副將 佐久間(同) × 河合榮次(同)
大将 宮川(同) × 鈴木 實(初段)
先鋒 島本猛然と起ち、敵を攻撃、終始壓倒せしも遂に引分となる。次々的場、敵の御大松尾二段と對し巧みに分く。次々は彦中のホーア山内。得意の彼の体落し、功を奏して一点をあげ敵副將と分く。佐久間然らば敵將と悠々分け、先づ大垣中を血祭にあげたり。斯くして第二回戦に出場し東海の梟雄岐阜商業と對す。戦績の左の如し

本校 岐阜商
先鋒 島本(初段) × 鈴木 新平(初段)
次鋒 的場(一級) × 熊田 吉夫(二段)
中堅 山内(初段) × 笠井 勝助(同)
副將 佐久間(同) × 伊藤金之助(初段)
大将 宮川(同) × 大口 三郎(同)
將二敗れたり。我等は遂に敗れたり敗軍の將は兵を語らず。校友諸兄に唯謝するのみ。縣下大會の必勝を誓ひて。
因に岐阜商は優勝戦まで残りたる強豪なり。

縣下中等學校武道大會 出場之記

夏の大會に惜敗してより、我等未だ努力は足らざるかと、八月下旬より猛練習を開始す此の間の、練習の劇しかりしことは、生涯を通じての思出ならん。斯くして自信はつきぬ。我等の最も期待せる縣下大會の來りし時我等は野心満々大津商業道場に向ひぬ。第一回戦は長濱農學、八日市中學、彦根商業の三校となり。

先づ長濱農學と對戦す。先鋒的場引分けし續く島本一点を先取すれば、山内、宮川共に敵を下し、大将佐久間、敵將松村初段と悠々引分け、軽く敵を一蹴す。

次に八日市中學、的場引分け、島本技有りを取るのみにて引分け、山内不覺にも敵に下る。宮川、我勝たずんば大いに奮戦軽く敵を倒し我等半ポイント大将佐久間引分ければ勝利は我ものと思ひしに佐久間不覺にも敵將佐藤の爲に敗る。嗚呼我等は八日市中學に敗れたり。因みに言ふ、八日市中學はオール初段なり。最後に彦商と對す。此の回勝たずんば第二回戦出場資格を失ふなり。福原的場に

端艇部報

部長 原田先生
理事 薄木先生
同 金盛先生
部員 四年 窓岡秀道 辰己行雄 橋本賢
一 佐々木光春 夏原憲一 角田
信三 石田茂信 日比乙三 奥川
直助
三年 佃精一 栗生崎雄 藤谷信了
二年 小田博 星津正士
一年 竹林武則

遠山の雪解け初める彌生の初の頃、春は夢ばかり、昨年度の重鎮福田、吉田、三和、田中、奥田、瀧川、松村の諸兄を送り出し、吾が部は茲に一大打撃を蒙りぬ。然し黄金時代を建設せんものぞ、赫々たる暑さも何のその、涙高きも何ぞ我等が意氣に抗するな

本校創立記念日校内競漕大會之記

麗かな五月一日、風はそよ／＼春陽は晴天高く輝き、櫻花爛漫として衆鳥和鳴、人心暢蕩たる此の吉日なり。
新緑に映る紺碧の空は、昨年と異りて、絶好のボート日和なり。

續いて遅い若人の競漕の力強さ、人の心を引き緊めずんば置かず、此ぞ海の子海國日本男兒の意氣、且つ赤鬼健兒、熱血兒彦中精神の表はれなりき。
斯くて職員レース行はれんとするや、學生時代に若返られし先生方の意氣込、熱力!! 倍て選手獨漕の時に来たりぬ。
先輩の記録を破らんものと、堅く盟ひて上艇せり。鮮かならずとも例の如くサリエートしてランチに繋がる。いざい今こ漕ぐべき時、用意は良し。サッ!と光りし二發、ウイ

を後にして突進せり。「ミッドルヘビー此所二十本」舵手の聲。一擧に起る漕手の呼聲の聲。我等漕ぐべき時は此所なり。差の生ずるか生ぜざるか勝つも負けるも、此の時の奮闘如何に在り。見よ!!其處に華々しき戦の演ぜらるるを!!

今、西空より絹糸の如き光線が、水面を打ちつゝその真中を五尺の童は好記録を以てゴールインせり。

あゝ美はしの戦哉。今は早波上には聲なく陽は西山に傾き美しく若人の戦も終了し萬歳を三唱して目出度散會す。

彦根高商主催艇大會

出場之記

昨年度の競夏原に新進の豪傑岡辰己をはじめ橋本、佐々木、奥川、樋口を加へ今年こそは積年の怨を晴し望を達せんものと、原田先生の助力を得、種々漕方の研究をなし、伊吹風膚寒き新學年の始めより一葉の扁舟に乗じ朝は始業前三十分間は必ずバック臺の練習をなし、夕は東山の月を吐く迄、風雨を冒して荒れ狂ふ琵琶湖上に怒濤を戦ふ。かくして我等は一に斯界の榮冠をめざして日一日と艇速

して戦の困難なるをおぼゆ。然して敵艇のグイを掴むに困難なる様を、怒然とながめたる我がクルーは實に心強く感じぬ。

いざ準備完了!!
嵐の前の静けさ!!

ドン!! 火蓋は切られたり。

共に物凄きスタートへビーを以て力漕し、舷々相摩す。膳所、八商ミドルにて稍我等に先んず。我得意の急調を以て進み彼も又急調を以てし、遂に七百のホールは來たりぬ。抜くべき時は今なりと思ふや否や「此所三本」ミ舵手はさげば艇足頓に速まり八商ミ雁行し再び猛烈なる白兵戦を演じつつラストに入れり。此所に於て「倒れて後己むの覺悟」を以て最後の猛漕を續けしも如何せん。体力差は如何ともしがたく遂に號砲一發膳中、八商己にゴールに入りぬ。

我膳中に後れること二艇身、八商に後なること僅かに三シート、萬事休す。我三位なりき。八商の牙城まさに潰れんとするや觀衆にはかに總立さなり、其の壯觀いかにかりぞや我等は免首して校友會諸君の御宥恕を乞ふのみ。

優勝戦(一時)

を増せり。

當日九時戦士は、躍る胸を抑へながら艇庫に集合せり。此の大會に出漕するは最初の参加にして、且つ夏原の他は経験少なかりしかば、部長以下種々作戦計畫に余念なし。午後十一時半抽籤の結果第一回戦は悠々バスし、準優勝戦!!

忘れもせぬ怨敵京一中なり。生か死か!!此の一戦こそ本大會の優勝戦に價するものなれ。彼は京の覇者積年の大敵なり然れども彼までも同じ人間!! 新春以來辛苦を嘗めて鍛えし此赤鬼健兒の鐵腕いざ示さん此の時天なる哉折悪しく北東の強風吹き慕つて波浪高くコンデション頗る悪化せり。

午後一時二艇相並んでスタートに着く。あの瞬間白煙一發グイを離れて一本一本決勝点に突進す。斯界の老練家たる彼は如何なる策戦が最初より猛烈なるヘビーを決行し巨大なる身軀よりして、すばらしき進行を見せぬ。

これが爲一艇身先んじられしと雖も何を小癩ないざみよミイドルヘビーの聲と共に、力漕に力漕我一漕せじ、彼又一漕激しき肉薄戦を演ぜしが、競漕の古狸京一中は波浪高き

コース 千百米

彦根中學 一コース 膳所二艇身

八幡商業 二コース 二者

膳所中學 三コース 一着 不明

因みに當日の出漕者は

C 富岡 秀道(四年)

S 辰巳 行雄(〃)

5 橋本 賢一(〃)

4 佐々木光春(〃)

3 夏原 憲一(〃)

2 奥川 直助(〃)

B 角田 信三(〃)

夏嬉練習記

彦根高商及び長農の大會に於て果敢なくも敗れし我等は、以後我が湖上にて、波浪の餘りに高く艇を操ること難ければ港灣に入りて練習し、風強ければ自ら吹き流され而して又風に向ひて突き進む。六月上旬より第二選手の編成も成り、共に果てし無き湖上に東へ西へミロノガを引く。而して災熱甚だしく天焼け水溜るる中大會を想ひては一漕一漕全てを忘れて、満身の力をオールに注ぎぬ。斯くして清き歴史の深へる満々たる水と、天高く

を利し我得意の秘漕數本將に決勝点に突入せんとする其の利那號砲天高く沖し我が事止みぬ。浪にもまれ風に曝され、あらゆる辛苦を嘗めしも哀れ一の泡も消えぬ。想ふ敗者の過言なるも其の行く所として敵なき稀世の大英雄ナレオンも、武運盡きては如何せん。あはれ孤城落日湖上遙かの孤島に風寒き夕朝に消ゆる淡雪の命も待たで倒れたり。戦敗は唯是時の運と云ひながら、無念遺憾の極にこそ。今は我等が運命を定むるは、舊倍の練習を要するのみと、確く盟へり。

長濱農學校主催優勝競

漕大會出場之記

去る高商の大會に不覺をミりしより、文字通り猛練習に猛練習をかされ、赤銅の腕をさすりつゝ、ひたすら時の來るを待てり。時は來たりぬ!! 我等の腕を試すべき時は、これぞ長農主催のレースなり。

七月二十日、おゝ我等が進歩を示さんものとぞ、意氣揚々部長引率のもとに長濱に赴く會場につけば八商、膳所既に到着し居たりき午後一時前記二校と本校と優勝戦を行へりコースは千百米なり。風はコースに横波をな

聳ゆる金龜城を見遙かして、我が端艇部の奮たりし奥田氏コースの許に、力強く日増しに艇速の増すを見たるなり。斯くして七月も半過ぎ暑中休暇も來りて校友は樂しき家庭に急げり。然れども我等には其をにも優る喜あり日毎愛艇を浮べて湖上に雄飛し、以て槍舞臺に立たんとする我等赤銅の肌にも赤鬼魂を宿し、涙を汗にぬれつゝ、まみれつゝ一日は暮れむさする時、我が懐がかし艇を艇庫に休めて終日の勞を謝す。樂しき哉我等、幸にも練習の後半期に於て一人の病者もなく、來るべき晴の戦の日を待てり。

京大主催全國中等學校

競漕大會出場之記

冷風は大湖に漣を起して我等七名の爲に祝福せむかとするかの如く絶好の練習日和を惠み、又或る時は怒風は苦しみの經驗を與へくれたり。五月中旬より此の方決死の練習は、遂に「必勝」の自信をほめかせしなり。「今年こそは!!」と意氣すてに大津の雲を風靡せるが如くして七月二十九日午後合宿所に入る。大會當日迄の約四日間、合宿所に於て、原田先生や夏原主將等と作戦に餘念なし

すでに敵さなすは唯、京一中、米子、名古屋商業、四日市商業なり。四日市何ぞ曰く「積年の仇敵米子を倒す！」と絶叫し、赤銅よりも黒き腕をたしきて、たどひたすら當日の壯觀を偲び、一日千秋の思ひなりき。

かくして三十、卅一日、過ぎ行く儘に練習を積み、八月一日は例年の如く出場選手の懇親會が行はれ、一同列席せり。時に學務部長、大津市長の所感、京大總長、京大端艇部々長の注意を述べられ、後委員の競漕に對する注意ありて番組の抽籤行はるるや、満場の選手已に敵は何所と固唾を呑む。ややありて我が敵は現れたり。

第三回

- 名古屋商業 一コース
- 彦根中學 二コース
- 四日市商業 三コース

合宿所に歸りて部長以下選手一同策戦に幾時かを送りぬ。大會前夜なれば早く床につけり。

八月二日

早期齋戒沐浴長等神社に参拜必勝祈願をなし八時半入場式に参列せり。戦は雨にして、或者は先輩に學友に喜々として仰へられ、或者

- 三番 夏原 憲一(ク)
- 二番 奥川 直助(ク)
- 艇軸 角田 信三(ク)
- 補石田(四) 日比(四) 佃(三)

京都帝大艇庫落成記念

端艇大會出之場記

十月十八日——時雨を呼ぶ悪天候なり。吾等が奮闘の日、扶搖萬里の風に駆すべき日はなかりぬ。

齋戒沐浴して戦機のを待つ。好敵眼中たるや、此の晴の舞臺に出場し來り、此の日の名譽の桂冠を得んもの、猛練習を積みりしかや聞く。我等金魚城下の赤鬼健兒意氣既に敵を呑み齋々第二コースに向ふ。

やがてスタートには一發の號砲と共に兩艇は突進したれどもスタートに於て早や一艇身を先立たれたり。然れどもあせることなく怒々ミストロークもて之を追ふ。ミドルに到れば二艇身の差、これ以上離さるべからず。かくてラストに掛るや我得意の急ピッチにて彼を追ふ。然るに如何。敵の力未だ衰へず。遂にラストへピーに移るや無我無中ゴールに達したるに、如何せんあゝ吾は遂に敗れたり。

は悲しみを色になして陸上に上り來る。やがて我等の戦ふべき時は來たりぬ。早朝より我等の爲め己が母校の爲き應援すべく訪れ下さし先輩諸子及び校友や特に御來場になつた松田先生部長等堅く必勝を約し「弱者を見侮らす、強敵を見て恐れず」をモットーとして堅く必勝を盟ひて上艇せり。鮮ならずとも例の如くザリユートしてランチに繋がる。スタートに向ふ三艘は黙々として語らずストロクサイドに四日市商業バウサイドに名古屋商業を見る。

いざ目今こそ漕ぐべき時用意は良し。「ゴカー」四日市が急調に出でしは？ 我スタート滑り出し強し。

百米……

二百米……未だその優勢を見ず。

三百米ホール通過。我等の叫び等しく「ヨシヨイト」呼應する漕手の聲！ お見よ！寸……敵を抜き行くに非ずや。四百米「ミドル前半艇身抜いたぞ」呼應してミドルに入る。四日市名古屋依然としてトップをそへて我に追ひすがらんとす。「ミドルへピースパート二十」我は敵に先んじて叫ぶ。こ見る敵は恰も結び付けたる如く、少しの

彦根中學 二コース 二着 差三艇身
膳所中學 一コース 一着

斯くて又膳中に敗れたり。吾等の雪辱も實を結びざりき。あゝ如何せん。唯第二回戦の對八商戦に必勝を期するのみ。

第二回戦

怨敵八商なり。何ぞ忘るるを得んや。長農の大會にて彼の爲に涙をのみしを今こそ雪辱の機なり。我等此の回にして勝たずんば何の苦辛慘憺何の効がある。死す迄、オールの折れん迄漕ぐのみ。一同必勝を期して艇に乗りスタートへ急ぐ。逆風はげしくなり稍々コンデアイション悪し。「されど何事やららん。」元氣を以てスタートに着く。號砲に依り兩艇等しくアレード水を打つ。我スベリダシよきも間もなく一シート先んじらる。我依然として尾行主義をこる。敵あせり氣味にて早くも進行にぶり、加ふるに我が尾行主義に惱まされ増々あせる。我依然としてロンケピッチにて進む我が舵手機先を制して「ラストへピー三十一」を掛け吾等は俄に元氣付きて、ぐんぐん抜きたり。敵正しく調子を亂したる様なり。吾等は此の昇天の氣を以て堂々決勝点に入れり敵は我に遅るゝこ半艇身なり。

優勢もなく對々我を壓し來る。我等は此所ぞとばかり應戦又應戦。然れども最早や我等の力に限り有りけん。此より以上の艇速すてに求め得ざりき。然れども唯余す所は死を賭して戦ふあるのみ。八百米一歩前に壁あるは名古屋か、然るに又残りの一艇四日市にもケン／＼抜かれ行く。

「ラストへピー後三十！」

我等の決死の努力もあ、ドン！ ゴールイ

「後三本！」我等は最後まで戦ひぬ。然れども体力の相違如何ともする能はず、茲に萬事休す、あゝ命なる哉！

吾終に本大會も覇をなす能はず、唯校友諸賢の御寛恕を乞ふのみ。

コース千百米突

- 第一着 名古屋商業 タイム4分56秒1
 - 第二着 四日市商業 差二シート
 - 第三着 彦根中學 一着との差半艇身
- 因みに當日の出陣者は左の如し
- 舵手 窓岡 秀道(四年)
 - 整調 辰巳 行雄(ク)
 - 五番 橋本 賢一(ク)
 - 四番 佐々木光春(ク)

彦根中學 一コース (二着) タイム不明
八幡商業 二コース (三着) 差半艇身
因に當日の出陣者左の如し

- 舵手 窓岡 秀道
- 整調 辰巳 行雄
- 五番 橋本 賢一
- 四番 佐々木光春
- 三番 夏原 憲一
- 二番 佃田 精一
- 一番 角田 信三
- コース七百米

補 日比乙三、石田茂信
回顧春風駘蕩櫻花爛漫として衆鳥和鳴し蝶蜂飛翔し、人心暢蕩たる四月、彦中の爲に光輝ある一頁を残さんもの、「ベストを盡す」をモットーとして練習に練習を重ねたり。高商の大會を初陣とし、長農、京大同じく京大の大會に出場す。

努力の酬誠に薄し、幾度か敗慘の土となりぬ。戦に臨みては常にベストを盡せり。しかし功なく唯未だ努力の足らざるにや、深く俯首して先輩及び校友諸君の御寛恕を乞ふ。來年は一人の移動なく端艇部の黄金時代、期待あれ。

諸君!! 監督部屋に華かなりし歴史を物語る敷葉の寫眞を見て如何に感じますか?

明治、大正を通じて唯血涙と意氣、努力による赤鬼魂を以て先輩の幾度か彼の榮ある大優勝旗を擁して、幾度か覇業の光榮に感激せしこゝか!

就中向ヶ岡にそり立つ一高の全國大會に於て群り来る、東北、北陽、關西、關東の強豪を征して隅田川に凱歌を奏したのだつた。何時も一中は敵の畏服するところだつた。到る處その威を逞うした:

然るに年改たまり星霜移り: 現今「選手赤字」だ。諸君よ!! 一度あの廣々とした湖上にボールを手にして漕いで見給。斑竹桃の花咲けば愈々我等が戦機到來し來る時、熱烈なる應援に送られ駒を進める我等。選手生活は楽しい。六百の健兒よ、諸君はきつと愛校心に燃え立ちてをられると私は信じます。

諸兄!! 諸君の中には赤鬼魂とは何かを解しない人が多い様である。部に入るにつらい、實際つらいものだ。

だが諸君頑張つた時苦しんだ經驗は一生の難事も切りぬける力を生むだらう。自ら苦しみと闘つて行くこそ男子の本懐とする所だ。

ホートを漕ぐ程男性的なものはないだらう。熱意氣と力の戦ひだ。

野球部報

部長 猿山先生
理事 柏島先生
同 千原先生
部員

五年(主將) 安居 感三	上杉 襄司
四年 馬場 兼吉	若林 逸雄
三年 大森 圭造	細川 常雄
二年 菅井 喜造	田中 哲爾
一年 山中利一郎	望月 正夫
寺村 武藏	

が如き猛暑の流汗瀧をなす粉骨碎身の努力も報いられず、空しく緑ヶ丘原頭の露を消えし吾々は悲憤の涙にうち暮れ、心ゆくまで泣けり。而れども吾等の鴻鵠の志は豈挫折せる哉否! 斷じて否。吾が愛校に燃ゆる犠牲的精神將又赤鬼魂は何ぞ女々しく挫折するを容赦しようぞ。吾等ナインは此の血涙の内に堅く捲土重來を誓ひき。嗚呼見よ鋭氣勃々たる若人の意氣を!、熱を!、一同暑さ何物ぞ夏尙醋の八月二十日より専心汗埃にまみれて精進をつづけたりき。嗚呼榮冠涙あり。

縣下リーグ戦出場之記

お、遂に來ぬ。戦ふべき時は來りぬ。いざ戦はん哉。赤鬼健兒の水刀受くる猛者あらば受けて見よ。
北部リーグ戦
本校對長瀬商業
九月十五日、於長瀬球場、審判森本、大村。
本校 22008001A 13A
長瀬 0300000000 3
計 13A

この戦開戦戦頭太田捕手右手指に負傷し月餘の休養を余儀なくされしも全員一致よく

群雄に當れり。

本校對彦根商業
九月二十九日 於彦中球場
本校 100011300 6
彦商 000012000 3

本校對彦根工業
十月五日 於彦中球場 審判 中谷、川崎
本校 04206511A 19A
彦工 000000000 0

本校對虎姫中學
十月六日 於彦中球場 審判 中谷、寺澤
本校 023510030 14
虎中 003000003 6

かく長商、彦商、彦工、虎中の諸校を鐵袖一觸し、輝く北部の代表權を獲得せし我等は選手の見と先輩の會議によりシートを更改し、一新せる意氣を以て將來に備へたり。

變更せるシート次の如し。
投手 大日方 捕手 太田
一壘手 森 田 二壘手 川村
三壘手 上杉(弟) 遊撃手 馬場

左翼手 上杉(兄) 中堅手 安居(主將)
右翼手 若林
斯くして選抜大會への希望は益々強く、日々の練習愈々猛烈なる。

リーグ戦準決勝 本校對勝所中學
忘れてたりや過ぎし七月の悲憤の涙。京津大會第一次決勝戦に敗れ男泣きに泣きて、臥薪嘗膽もつて會稽の恥を辱がんと誓ひし吾等にあらすや。されば一同過ぎし幾月かの鬱憤を晴らさんものと意氣揚々としを宿敵勝中の本陣旭人絹のグラウンドに向へり。

日時 十一月十七日
審判 安澤、藤田兩氏
彦中先攻
第一回(彦中)馬場四球、若林三壘失、上杉(弟)の左翼頭上を抜く大本壘打に三者怒々生還。安居投捕、上杉(兄)三振、太田左飛で終れど本校先づ三点を先取す。
(勝中)岩見三壘、澤井左中間安打に出でしが中村(源)の三壘で封殺さる、中村(源)二盗し、谷澤の三壘を一壘手落球し中村三進更に岡本の遊捕不規則バウンドのミスで中村生還一点を返せしが中村清三飛。
(本校三、勝中二)

第二回(彦中)川村三壘、森田三振、大日方三壘一壘失に生きしも馬場投捕。
(勝中)小原二壘手左の安打に出でしも二盗に倒れ、山本三壘、小西遊捕、(兩軍〇)
第三回(彦中)若林遊飛、上杉(弟)三振。
安居捕前ゴロを内野安打し更に二盗せしも上杉(兄)三振。
(勝中)岩見三壘、澤井三振、中村(源)三振
(兩軍〇)

第四回(彦中)太田遊捕一壘惡投に出で捕逸に二進せし、が川村、森田共に三振、太田方左飛。
(勝中)谷澤三壘頭上を抜く二壘打に出でしが、岡本三振、中村(清)四球、小原、山本共に三振。(兩軍〇)
第五回(彦中)馬場遊飛、林一邪飛後、上杉(弟)三遊間を抜いて出でしも安居の強備を遊撃手よく止め一壘アウト。
(勝中)小西三壘、岩見三壘失に出でしが投手の牽制球にかゝり、二壘間に挾殺され、澤井三振。(兩軍〇)
第六回(彦中)上杉(兄)三壘オーバーの安打に出で太田投捕安打に走者一、二壘となる川村二飛後森田の三壘強備を野手逸するを見

て上杉(兄)三壘を越え本壘に走らんこせしが左翼手の好送球に三壘に憤死する。續く大日方ストレットの四球で二死満塁となり、馬場捕手の打撃妨害に出塁し太田生還、若林三邪飛、本校一点を加ふ。

(勝中) 中村(源)三壘壘上を抜く安打に出でしが、谷澤左飛後、投手牽制球にかゝりて刺され、岡本三振。(彦中一 勝中〇)

第七回(彦中) ラッキーセブンス共に本校益々士氣盛んにして敵艦援團の悪瀾次に動ぜず。上杉(弟)四球、安居中前安打、上杉(兄)の左中間安打で上杉(弟)生還し、左翼手が本に投ずる間に安居、上杉(兄)夫々進塁す。太田の遊飛で安居本壘を突き惜しくも刺され二死となりしが川村左前安打に上杉(兄)一擧二壘より歸り、左翼手の返球を投手失する間に川村二進し、更に森田の右中間の二壘打で生還す。續く大日方四球、馬場左前安打で又もや満塁となり若林の二壘に總攻撃漸く終る(勝中) 中村清四球に出づれども小原三振の時二盗せんとして二壘に重殺され、山本の代打、中川遊飛。(彦中三 勝中〇)

第八回(彦中) (勝中、山本退き中川二壘に入る) 上杉(弟)三壘、安居三遊間安打直ち

(彦中) 川村左飛、森田一ボール後左中間に痛打せしが大日方遊飛、馬場左飛止む。

(兩軍〇)

第三回(八商) 手塚三壘一壘手の落球に生きたが西澤の三壘で鮮かに重殺され、須田左飛で本校の堅陣容易に陥落せず。

(彦中) 三邪飛、上杉(弟)三壘越の安打直ちに二盗、安居の一壘で更に三壘に達す。上杉(兄)四球の後、太田第一球をヒットアンドラシに出でしがセンターフライとなり好機を逸す。(兩軍〇)

第四回(八商) 伊藤二壘、塚本遊間一壘失に出で安村もストレットの四球で走者一、二壘の時長谷の一壘ゴロを野手失し、塚本二壘より生還す。其の間に長谷二壘を奪はんとし一壘をバックアップせる二壘手の美技で二壘に刺され、安村も三壘を越え、本壘に向つて突入し遊撃手の本壘送球に寸前に刺され本校巧みなホルルのリレーでピンチを脱す。而れども敵よく一点を返し試合は二對一の白熱戦となり觀衆熱狂す。

(彦中) 川村中前に痛打を放ち本校チャンスと思はれしが、森田のヒットアンドランは右飛となり一壘に重殺され、大日方三飛。

に二盗、上杉(兄)の三壘で三進し、太田も四球を得しが川村三振で後援續かす。

(勝中) 小西三球三振、岩見三邪飛、澤井遊間。(兩軍〇)

第九回(彦中) 森田四球、大日方、馬場共に三振の後、若林の遊間一壘失に森田一擧三壘に進み、上杉(弟)打者の時若林二盗し、上杉(弟)も四球に満塁となりしも安居の一打遊間となり、上杉(弟)二壘に封殺さる。

(勝中) 勝中懸命にもがけども我エース大日方投手を攻落し得ず中村(源)中飛、谷澤遊間岡本三球で三振、遂に試合終了のサイレンは彦中の勝利を祝福するが如く空高く響き渡れり。嗚呼！決なる哉！

先	彦中	3	0	0	0	0	1	3	0	0
勝中	中	1	0	0	0	0	0	0	0	0
										1

中	場林弟居兄田村田方	42	7	12	9	8	4	3	1
彦	馬若上安上太川森大	6	9	5	8	7	2	4	3
									1
中	見井源澤本清原本川四	30	1	4	10	2	2	4	1
勝	岩澤中谷岡中山小	0	5	2	1	7	8	9	4
									4

(八商一、彦中〇)

第五回(八商) 井崎三壘、田中二〇後敵の最初の安打を中前に打つて出でしも、手塚遊飛、西澤三振で後援なし。

(彦中) 馬場投捕、若林遊間一壘失に出で上杉(弟)の三壘で若林封殺さる。安居打者の時上杉(弟)二盗し安居もよく選球し四球に出で上杉(兄)又四球で本校二死ながら満塁のチャンスをつかみ、太田の一撃期待されしが太田遊間し上杉(兄)二壘に封殺され本校又もや好機を逸す。(兩軍〇)

第六回(八商) 須田左飛、伊藤二壘、須田中飛で凡退す。

(彦中) 川村三壘、森田四球を得しが太日方中飛、馬場四ツ續け様にファールせし後三壘本校、安村投手の緩球をミート出來す再度のチャンスを得し試合は二對一の接戦のまゝ進む。(兩軍〇)

第七回(八商) 安村遊間、長谷、井崎共に投捕。

(彦中) 若林ライナーの三遊間安打、上杉(弟)のセーメチバンドで無死走者一、二壘となり、安居の投前犠牲バンドで走者二、三壘となる。上杉(兄)又も續いてセーフチバン

二壘打 森田、谷澤

本壘打 上杉弟

重殺 太田一馬場、岩見一澤井

優勝戦 本校對八幡商業

連戦連勝破竹の勢にありし吾等は遂に中部の雄、八幡商業と雌雄を決する事となり。自他共に縣下の最強チームと許す本校は八商の奮進を斥け以て其貫録を示さんと思振す。(十一月三十日) 天隅なく晴れ絶好の野球日和なり。時常に二時、關井球審のプレーボールの聲も高らかに試合は開始されたり。

第一回(八商) 須田第一球を狙ひしも二飛伊藤遊間、塚本二壘で本校の好守に八商簡單に三者凡退。

(彦中) 馬場遊飛後、若林右前安打上杉(弟)三遊間安打で走者一、二壘となる。安居左飛で二死となりしが上杉(兄)の三遊間安打に若林二壘より長驅生還し最初の一点を擧ぐ、上杉兄弟又其間に二、三壘間に挟まれる間に上杉(弟)も生還。本校早くも三本の安打を集中し二点を入れ氣勢大いに揚る。(八商〇 彦中二)

第二回(八商) 安村三壘、長谷左飛、井崎四球を得しも田中二飛で無爲。

トに成功し若林勇躍ホームイン、太田打者の時上杉(兄)二盗し、太田の遊間で太田一壘に刺される間に上杉(弟)生還し、上杉(兄)も三壘に進む。川村アンボールの後、彼の得意とする近目の直球を得たりと打てば左中間を抜く堂々たる二壘打となり上杉(兄)更に一点を加へる。續く森田の猛烈な左翼左を抜く二壘打に川村も生還す。大日方左前安打で一、三壘となり馬場の遊撃強襲安打に森田も生還。猶も有望と思はれしが、若林三振し漸やくチエンザとなる。されど本校よく七本の安打、内二本の二壘打を集中し、一方巧妙なバント攻めに敵陣を擾亂し五のアーンドランを入れる。(八商〇 彦中五)

第八回(八商) 田中、手塚共に大日方投手に封ぜられて三振、西澤アッドボールで壘に出でしが須田左飛で無爲。敵打者何れも大日方投手のチェンオプベイスに如何んともなす事能はず。

(彦中) 上杉(弟)遊間一壘悪投に一擧二進す安居の左翼大飛球を左翼手の美技に阻まれしも上杉(兄)の三壘線に沿ふ二壘打で上杉(弟)生還、太田遊間、川村遊飛。本校更に一点を加へ益々元氣よく最後の守備につく。

〔八商〇 彦中一〕

第九回(八商)伊藤三圃一壘悪投に二連、塚本ストレートの四球に出でしが投手牽制球で一壘に刺され、安村の遊備で伊藤三壘を突き遊撃手の送球で三壘寸前で刺され、長谷左飛で萬事休す。
かくては本校此所に此の大会に於いて榮えある三年連続優勝の記録を作れり。
當日のメンバー次の如し。

先	
八 商	0 0 0 1 0 0 0 0 0 0
本 校	2 0 0 0 0 0 0 5 1 A
	8 A

八 商	田藤木村谷崎中塚澤
須伊坂安長井田手四	5 3 2 1 8 9 6 4 7
打点打振死壘策打	28 1 1 0 3 4 0 2 0
打得安犠三四盗失二	38 8 14 1 1 4 3 4 4 2
中	場林弟居兄村田野方
馬若上安上太川森大	6 9 5 8 7 2 4 3 1
重 殺	馬場一太日方一太田

二壘打 森田(二本)、川村、上杉兄
重 殺 馬場一太日方一太田

所に本校一点を勝越し士氣大いに振ふ。安居左飛。
(京商)北出左前安打、二盗成らず、遠藤三振、吉田投備。本校敵を押し氣味なり。

(彦中三、京商〇)
第五回(彦中)上杉(兄)左翼越の二壘打に出で川村の犠打で三進し、更に森田との間のスクエア見事に成り上杉(兄)生還一点を加ふ。門野も遊撃右を抜く安打に出でしも大日方左飛。

(京商)仲野三振、林田三前内野安打、栗山三飛、佐藤三振。(彦中一、京商〇)
第六回(彦中)上杉(弟)本日四本目の安打を三遊間に打ち出でしも、太田の遊備で重殺さる。若林四球に出でしも安居三振。

(京商)仲三壘内野安打に出でしが、近藤の遊備で封殺され、北出三振、遠藤四球に出で吉田中前安打に近藤二壘より本壘を衝きて中堅手の好投に本壘寸前に刺さる。(兩軍〇)
第七回(彦中)上杉(兄)左前安打に出で捕逸で二進し、川村も四球に出で、好機再来と思はれしが、森田三振、門野四球で満塁の時上杉(兄)三壘において捕手の牽制球に刺され大日方三振でチャンスを通す。

第一次京滋對抗戦出場之記

縣下に於いて連戦連勝の吾等は更に一歩躍進して強豪京都軍と戦はん。平安何物ぞ!。京師何物ぞ!、吾には技を補ふに熱意あり。何ぞ京洛の軍勢を恐れんや。我等は母校の爲に更に我が湖國の爲に獅子奮迅を戦へり。

本校對京都商業

敵は嘗つては名投手澤村を擁して全中等野球界に君臨せし豪の者。相手として何ぞ不足あらん。いざ戦はん、雄々しく堂々として。
十一月一日、綠ヶ丘球場にて友宗、四巻兩氏審判の下に開始。(本校先攻)
第一回(彦中)上杉(弟)第一球を三壘頭上を越す安打に出づれども投手の牽制に刺さる太田左前安打、若林の遊備で太田二封、安居二壘。
(京商)北出ストレートの四球、遠藤も四球後重盗成り、吉田の中前安打に北出生還、仲野の中前安打に遠藤も還り走者二、三壘となる。林田投備、栗山、佐藤共に四球で吉田押出され仲三振、近藤三圃。京商よく大日方投

(京商)仲野三遊間安打に出でしも、林田遊飛、栗山三飛、佐藤一圃で後援なし。

(兩軍〇)
第八回(彦中)(京商投手中尾となり栗山遊撃に入る)四球を選びしが、太田三飛、若林一飛で二死後、上杉(弟)二盗を企てて成らず。

(京商)仲二飛後、林田死球で一壘に出で、續く北出中前に安打し、更に遠藤の四球で本校一死満塁のピンチに襲はる。續く吉田の一打は投手の右を襲ふゴロとなる。投手よくシテ止めしむ本壘悪投となり近藤生還す仲野の遊備を野手弾きて遠藤も還り此所に同点となり、試合は將に興奮の絶頂に達す。大日方投手のコントロール亂れ林田ストレートの四球に出で遠藤押出され本校遂に一点をリードさる、猶も一死満塁なりしが全軍引寄せつつ栗山の三圃を川村よく捕らて吉を本壘に刺し、佐藤の二圃で栗山も二壘に封殺さる。

(彦中〇、京商三)
第九回(彦中)夕陽は段々球場を包み球もはつきり見えなくなりしも吾等是非とも一点を返さんもの必死に攻撃す。而れども勝利の女神は吾を見捨てやしけん。安居空し

手の肩定まらざるに乗じ三点を入れ本校最初より苦戦す。(彦中〇、京商三)

第二次(彦中)上杉(兄)三圃、川村三圃、森田三振で無爲。

(京商)北出三圃一壘失に出で二盗に刺さる遠藤四球に出で二盗し更に吉田の一圃で三進仲野の遊備失に生還す。林田二圃。
(彦中〇、京商二)

第三次(彦中)本校漸く試合に馴れ追撃の氣運油濡として起る。門野遊備後、大日方遊撃左を抜く安打に出で、上杉(弟)三越安打、太田の遊備失で一死満塁の好機を掴む。若林の遊備失で大日方還り、安居の安打で上杉(弟)生還二点を返し猶も一死満塁で有望と思はれしが上杉(兄)の三圃で太田本壘に封殺され、川村三圃。本校よく二点を返し試合愈々白熱す。

(京商)栗山二圃、佐藤四球、仲右飛、近藤三圃で無爲。(彦中二、京商〇)

第四次(彦中)森田一飛後、門野四球を得大日方も四球の後上杉(弟)の左中間安打で本校又も一死満塁の好機を掴み満塁騒然となる、太田右飛で二死となりしも若林殊勳の二壘打を左翼越に放ち三者相續いて生還す。此

く三振し上杉(兄)も三振、森田四球に出でしも門野三振でゲームセット宣告さる。時に五時十分。
メンバー次の如し。

先	
彦 中	0 0 2 3 1 0 0 0 0 0
京 商	1 2 3 4 5 6 7 8 9
	3 1 0 0 0 0 0 0 3 A
	7 A
計	6

中	弟田林居兄村田野方
上太若安上川森門大	34 6 11 2 7 7 0 3 2
遊捕中一左三二右投	33 7 9 10 5 0 3 1 0
數數打打振死壘策打	
打点安犠三四盗失二	
京 商	出藤田野田山藤 尾藤
北遠吉仲林遊佐中近	
中二三一右投左捕投遊	
二壘打 若林、上杉(兄)	
重 殺 栗山一遠藤一中野	
本校對平安中學	

對京都商業の敗戦に我等は憤然として一層の猛練習を重ね今日の来るを待てり。敵、平安は全國に勇名を轟はる豪の者とは言へ、彼こそ鬼神にはあらず。歴史速き吾傳統を以てせば何をか恐れんや。今や彦中健兒の血は